

令和5年度 年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	国語 ・ 国語総合		2単位	対象学年・組	3年必修選択
教科書	(浜島書店)		教科	国語科	
・副教材等	新課程対応版 大学入学共通テスト対応版 LT現代文2		担当者	佐藤 藍	
目 標	一学期	筆者のものの見方・考え方・感じ方を読み取り、日常を超えたものの普遍性・精神性について思考を深める。評論の要旨を捉えて構成を把握し、内容を的確に理解する。			
	二学期	問題演習を通して作品の構成を理解して読み味わい、人生、社会について思索を深める。客観的記述と主観的記述を明確に区別し、論理展開を的確に捉えるなどの力を養う。			
	三学期	問題演習を通して読解力の完成を図る。質問を受ける。			
学 期	月	単 元	時間	学 習 内 容	
一 学 期	4月	第一部 1, 2	24h	<ul style="list-style-type: none"> ・評論文の問題提起を探す ・常識を疑って評論文を読む ・語句の意味を文脈で判断する 	
	5月	第一部 3, 4		<ul style="list-style-type: none"> ・評論文のなかの具体と抽象をとらえる ・三つの修辞法(引用・逆説・比喩)を覚える 	
	6月	第一部 5, 6		<ul style="list-style-type: none"> ・二つのものを比べながら考えを深める論理展開(対比)をつかむ。 	
	7月			定期考査を振り返り、解説をする。	
二 学 期	9月	第二部 8, 9	28h	<ul style="list-style-type: none"> ・「ものことば」「交易の起源」を読解する。 ・問題演習を行う。 	
	10月	第二部 10, 11		<ul style="list-style-type: none"> ・「余白の美字」「インターネットは何を変えたのか」を読解する。 ・問題演習を行う。 	
	11月	第二部 12, 13		<ul style="list-style-type: none"> ・「生命現象というシステム」「ボランティアの報酬」を読解する。 ・問題演習を行う。 	
	12月			定期考査を振り返り、二学期の復習をする。	
三 学 期	1月	問題演習	18h	より高度な評論の読解問題にチャレンジする。	
	2月	質問対応		質問対応	
	3月	質問対応		質問対応	
評価の観点・方法	欠席・遅刻などの出席状況、授業態度、課題取組状況、考査成績、提出物などを総合的に勘案し評価する。				

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	国語・現代文B	2単位	対象学年・組	3年1組～7組必修
教科書	精選現代文B 新訂版(大修館書店)	教科	国語科	
・副教材等	現代文B 学習課題ノート 新訂 国語図説 五訂版(京都書房) キーワード漢字2700(浜島書店) 高校生必修語彙ノート 改訂版(桐原書店)	担当者	小西・佐藤	

目 標	一学期	・評論の要旨を捉えて構成を把握し、内容を的確に理解する。 ・日本の近代文学の傑作の一つを読み、小説の鑑賞力を養い、人間の心についての考察を深める。 ・構成を理解して読み味わい、人生、社会について思索を深める。
	二学期	・評論の読解によって、現代社会に対する問題意識を鮮明にさせる。 ・日本の近代文学の傑作の一つを読み、人生、社会について思索を深める。
	三学期	・詩に描かれた作者の思いや、社会に対する考えを、レトリックの効果に意識的になることによって読み取る。

学期	月	単元	時間	学習内容
一学期	4月	「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ	24h	文章の論理構造に着目して評論文を読み解く力を養う。才能に伴う返礼義務についての筆者の主張を読み取る。
	5月	「赤い繭」		激動の近代化の中に生きる主人公とその周辺人物との人間関係読み取り、それぞれの心情をつかむ。
	6月	「「である」ことと「する」こと」		文章の論理構造に着目して評論文を読み解く力を養う。さまざまな例を用いて述べられた、「する」ことによって初めて「である」という筆者の主張を読み取る。
	7月	「「である」ことと「する」こと」		文章の論理構造に着目して評論文を読み解く力を養う。「する」ことによって初めて「である」という筆者の主張について、自分の人生を見つめ直しながら考えを深める。
二学期	9月	「生物多様性の恩恵」	28h	論理的な文章の読解力を高め、論理的思考力を養う。「生物多様性」の関係システムについて認識を深める。
	10月	「生物多様性の恩恵」		筆者の論理展開の仕方や用語の概念規定を理解し、世界環境における「生物多様性」の課題について認識を深める。
	11月	「檸檬」		「不吉な塊」によって「以前」の「私」と「その頃」の「私」がどう変わってしまったのか把握する。「その頃」の「私」が好きだったものを把握する。
	12月	「檸檬」		檸檬による「私」の感情の変化を把握する。目まぐるしく変化する「私」の心の変化をおさえる。店を出た後、檸檬を爆弾に見立てた想像をすることの意味を考える。
三学期	1月	「短歌・俳句」	18h	短歌・俳句に描かれた作者の思いや、社会に対する考えを、レトリックの効果に意識的になることによって読み取る。
	2月	質問対応		質問対応
	3月	質問対応		質問対応

評価の観点・方法	<p>観点：①論理の展開や要旨を捉えられているか。②人物・心情・情景等を捉え、表現を味わえたか。③人間・社会・自然等について自分の考えを深めたり発展させられたりできたか。④筆者のものの捉え方・感じ方を理解したか。⑤語句の意味・用法を正しく理解し、表現に生かされたか。⑥真摯な取組ができたか。</p> <p>方法：定期テスト、小テスト、提出物、授業態度、遅刻・欠席・早退などの出席状況等を総合的に評価する。</p>
----------	--

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	国語・古典B		2単位	対象学年・組	3年必修選択B枠
教科書	高等学校 標準 古典B (第一学習社)		教科	国語科	
副教材等	体系古典文法、体系古典文法学習ノート、古文単語315、古文上達基礎編読解と演習45		担当者	齋藤 勝	
目 標	一学期	・ 考査ごとに、語彙力・文法の学力の伸長を確認する。 ・ 2年次までの文法事項の復習をし、再度定着を図る。 ・ 問題演習を行い、基礎学力を確認し、応用力を養う。			
	二学期	・ 古文問題演習を行い、総合力の伸長と充実を図る。			
	三学期	・ 古文問題演習を行い、総合力の伸長と充実を図る。			
学 期	月	単 元	時間	学 習 内 容	
一 学 期	4月	随筆	24h	・ 文法事項の復習(仮名遣い・活用語) ・ 入試問題演習	
	5月	随筆 問題演習		・ 文法事項の復習(活用語) ・ 入試問題演習	
	6月	問題演習		・ 入試問題演習	
	7月	問題演習		・ 入試問題演習	
二 学 期	9月	問題演習	28h	・ 入試問題演習	
	10月	問題演習		・ 入試問題演習	
	11月	問題演習		・ 入試問題演習	
	12月	問題演習		・ 入試問題演習	
三 学 期	1月	学年のまとめ	18h	学年のまとめ	
	2月	学年のまとめ		学年のまとめ	
	3月	学年のまとめ		学年のまとめ	
評価の観点 ・方法	【観点】①歴史的仮名遣いに注意して音読することができたか。②古語辞典や注釈を活用して、大まかな内容をつかむことができたか。③品詞に注意して、現代語訳ができたか。④古典文法(品詞・動詞・形容詞・形容動詞・助動詞・助詞)を理解することができたか。⑤重要古文単語を覚えることができたか。⑥人物・情景・心情などを的確に捉え、自己の感想・意見を表現することができたか。⑦古典の世界と現代を比較して、人間・社会・自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすることができたか。⑧語彙を豊かにするとともに、表現上の特色を捉えることができたか。【方法】定期テスト・小テスト・提出物(宿題・ワークシート)・口頭課題・授業態度などを総合的に評価する。				

教科・科目	国語・小論文演習		2単位	対象学年・組	3年1～7組 必修選択B類
教科書 ・副教材等	小論文を書くための基礎知識BOX 及び マスタードリル		教科 担当者	国語科 喜入 克	
目 標	一学期	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くことに慣れる。 文章表現の基礎を習得する。 作文と小論文の違いを理解する。 自分を表現する。社会問題に触れる。 			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章を書くことに慣れる。 時事問題、頻出課題の演習をする。 			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> 実用的な表現方法の常識を覚える。 			
学期	月	単元	時間	学習内容	
一学期	4月	表現の基礎	24h	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション と小論文の違い 文体の統一 話言葉と書け言葉の使い分け 	
	5月	表現の基礎		<ul style="list-style-type: none"> 自己と他者を見つめて表現する。 	
	6月	表現の基礎		<ul style="list-style-type: none"> 問われている内容を正確に読み取る 説得力のある文章の書き方 	
	7月	表現の実践		<ul style="list-style-type: none"> 要約 問題の原因を考える 問題解決方法を考える。 	
二学期	9月	表現の実践	28h	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見の根拠を示す 別の考え方の想定 	
	10月	表現の実践		<ul style="list-style-type: none"> 効果的な段落構成 データや図表を読み取る 推敲の方法 	
	11月	表現の実践		<ul style="list-style-type: none"> 小論文の評価 入試小論文の型 	
	12月	表現の実践		<ul style="list-style-type: none"> 入試小論文の実践 	
三学期	1月	表現の探求	18h	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に役立つ表現を覚える。 	
	2月	同上		同上	
	3月	同上		同上	
評価の観点 ・方法	<p>次の事項を総合的に勘案し、本人の授業に対する姿勢、日常的な努力を見極めながら評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小論文の評価 課題の提出状況 出席状況・授業中の取組状況 				

令和5年度 年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	国語 ・ 現代文演習		2単位	対象学年・組	3年必選AC・自選
教科書	(いいずな書店)		教科	国語科	
・副教材等	プログレス現代文 完成編		担当者	畑 直美	
目 標	一学期	問題演習を通して・随想から筆者のものの方の見方・考え方・感じ方を読み取り、日常を超えたものの普遍性・精神性について思考を深める。・評論の要旨を捉えて構成を把握し、内容を的確に理解する。・小説の登場人物の人物像・心情の推移を把握し、特色のある表現を読み味わうなどの力を養う。			
	二学期	問題演習を通して・作品の構成を理解して小説を読み味わい、人生、社会について思索を深める。・客観的記述と主観的記述を明確に区別し、論理展開を的確に捉えるなどの力を養う。			
	三学期	問題演習を通して読解力の完成を図る。			
学 期	月	単 元	時間	学習内容	
一 学 期	4月	問題番号1・2	24h	問題演習 及び問題文の分析、語彙及び読解の完成	
	5月	問題番号3～6		問題演習 及び問題文の分析、語彙及び読解の完成	
	6月	問題番号7～9		問題演習 及び問題文の分析、語彙及び読解の完成	
	7月	問題番号10及 び期末考査解		問題演習 及び問題文の分析、語彙及び読解の完成	
二 学 期	9月	問題番号11・12	28h	問題演習 及び問題文の分析、語彙及び読解の完成	
	10月	問題番号13～15		問題演習 及び問題文の分析、語彙及び読解の完成	
	11月	問題番号16～18		問題演習 及び問題文の分析、語彙及び読解の完成	
	12月	問題番号19及 び期末考査解		問題演習 及び問題文の分析、語彙及び読解の完成	
三 学 期	1月	問題番号20及び 大学過去問演習	18h	問題演習 及び問題文の分析、語彙及び読解の完成	
	2月	質問対応		質問対応	
	3月	質問対応		質問対応	
評価の観点 ・方法	欠席・遅刻などの出席状況、授業態度、小テスト・考査成績、提出物(要約ノート の取り組み)などを総合的に勘案し評価する。				

教科・科目	地理歴史・日本史B	2単位	対象学年・組	3年必修
教科書 ・副教材等	詳説日本史B(山川出版) 日本史図録(山川出版社)	教科 担当者	地理歴史科 小川 耀氏	

目 標	一学期	武士の登場によって始まった中世社会の政治経済の急変から、鎌倉時代、室町時代を経て戦国時代までの通史を学習する
	二学期	織豊政権の成立から、江戸時代の幕藩体制の成立、そして江戸時代の諸改革に至る過程を学習する
	三学期	幕府の衰退、鎖国の動揺から近代への道を模索する過程を学習する

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	平安時代後期	24h	院政と平氏の台頭
	5月	鎌倉時代		鎌倉幕府の成立、武士社会、蒙古襲来と幕府の衰退
	6月	鎌倉文化と室町幕府		鎌倉新仏教、室町幕府の成立、室町文化、応仁の乱
	7月	戦国大名の登場		下克上、戦国大名の分国支配
二 学 期	9月	織豊政権	28h	南蛮貿易、キリスト教布教、織田信長・豊臣秀吉の全国統一
	10月	幕藩体制の成立		江戸幕府の成立、幕藩体制の構築
	11月	幕政の安定		元禄時代、正徳の政治、経済の発展
	12月	幕政改革		享保の改革、一揆、打ち壊し、田沼意次の政治
三 学 期	1月	幕府の衰退と近代への道	18h	寛政の改革、鎖国の動揺、大塩の乱、天保の改革
	2月	質疑対応		質疑対応
	3月	質疑対応		質疑対応

評価の観点 ・方法	中世の幕開けから近世までの時代の流れを理解できたか、基礎的な歴史事項について身につけることができたか。考査成績のほか、提出物(ワークシート)、授業態度なども含め総合的に評価する。
--------------	---

教科・科目	地歴・世界史B	2単位	対象学年・組・区分	3年必修選択
教科書 ・副教材等	詳説世界史B(山川出版社)(とうほう) 歴史風景館世界史のミュージアム	教科 担当者	地歴科 宇田川 岳夫	

目 標	一学期	先史時代・文明の成立から古代ギリシア世界までを学習する
	二学期	古代ローマの地中海世界、古代インド、古代中国、イスラームの形成について学習する
	三学期	東アジア世界の形成について学習する

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	古代オリエントと地中海世界	24h	先史の世界・古代オリエント文明を学習する
	5月	古代オリエントと地中海世界		古代オリエント文明を学習する
	6月	古代オリエントと地中海世界		古代ギリシア文明を学習する
	7月	古代オリエントと地中海世界		まとめ
二 学 期	9月	諸地域世界の形成	28h	古代ローマ文明と地中海世界
	10月	アジアの古代文明		インドと中国の古代文明
	11月	イスラーム世界		イスラーム世界の形成と発展
	12月	イスラーム世界		まとめ
三 学 期	1月	東アジア世界の形成	18h	魏晋南北朝から隋唐の流れを学習する
	2月	質問対応		質問対応
	3月	質問対応		質問対応

評価の観点 ・方法	<p> 考査成績・提出物の状況のほか、出席状況と毎日の授業態度などを含め総合的に評価する。 </p>
--------------	--

教科・科目	地歴・世界史B	2単位	対象学年・組・区分	3年必修選択
教科書 ・副教材等	詳説世界史B(山川出版社)(とうほう) 歴史風景館世界史のミュージアム	教科 担当者	地歴科 宇田川 岳夫	

目 標	一学期	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立を学習する
	二学期	欧米における近代国民国家の発展と動揺する中国を学習する
	三学期	帝国主義について学習する

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	24h	産業革命について学習する
	5月	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立		アメリカ独立戦争・フランス革命とナポレオンを学習する
	6月	欧米における近代国民国家の発展		ウィーン体制について学習する
	7月	欧米における近代国民国家の発展		まとめ
二 学 期	9月	欧米における近代国民国家の発展	28h	ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生について学習する
	10月	アジア諸地域の動揺		清末の中国を中心に学習する
	11月	帝国主義		欧米列強の帝国主義と第一次世界大戦について学習する
	12月	帝国主義		まとめ
三 学 期	1月	二つの世界大戦	18h	世界恐慌とファシズム
	2月	質問対応		質問対応
	3月	質問対応		質問対応

評価の観点 ・方法	<p> 考査成績・提出物の状況のほか、出席状況と毎日の授業態度などを含め総合的に評価する。 </p>
--------------	--

教科・科目	地理歴史・日本史B	2単位	対象学年・組	3年1組～7組必修選択
教科書 ・副教材等	詳説日本史B（山川出版社） 詳説日本史図録	教科 担当者	地理歴史科 新村治義	

目 標	一学期	原始社会から古代社会への変遷を学習する
	二学期	古代社会の展開と中世社会への変遷を学習する
	三学期	中世社会の成立の意義を学習する

学期	月	単元	時間	学習内容
一 学 期	4月	日本文化のあけぼの	24h	日本文化のはじまり
	5月	日本文化のあけぼの		農耕社会の成立
	6月	日本文化のあけぼの		古墳とヤマト政権
	7月	律令国家の形成		飛鳥の朝廷
二 学 期	9月	律令国家の形成	28h	律令国家への道 平城京の時代
	10月	律令国家の形成		天平文化 平安王朝の形成
	11月	貴族政治と国風文化		摂関政治 国風文化
	12月	貴族政治と国風文化		地方政治の展開と武士の台頭
三 学 期	1月	中世社会の成立	18h	院政と平氏の台頭
	2月	個別指導		個別指導
	3月	個別指導		個別指導

評価の観点 ・方法	考査成績のほか、小テストや提出物（課題・ノート）、授業態度など総合的に評価する
------------------	---

教科・科目	地理歴史・日本史B	2単位	対象学年・組	3年1組～7組自由選択
教科書 ・副教材等	詳説日本史B（山川出版社） 日本史図録「山川出版社」	教科 担当者	地理歴史科 小川 耀氏	

目 標	一学期	開国の衝撃によって始まった幕末の政治経済の急変から、明治維新を経て、憲法の成立と日清・日露戦争までの通史を学習する
	二学期	明治後期の経済と社会から、第一次大戦を経て、列強の一員となった日本が、中国との戦争に突入していく過程を学習する
	三学期	日中戦争、太平洋戦争、そして敗戦を経て、戦後変革から新しい日本の成立を学習する

学 期	月	単 元	時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	開国から明治維新	24h	近世史の復習, 改革と社会変動, 開国の衝撃と幕府の滅亡, 明治維新
	5月	明治前期の日本		富国強兵, 殖産興業, 自由民権運動、憲法発布
	6月	明治後期の日本		憲法の制定と日清戦争
	7月	明治末期の日本		日露戦争と戦後の社会
二 学 期	9月	明治後期の経済と社会	28h	産業革命から大正政変にいたる社会の変化
	10月	政党政治と軍部		大戦景気から戦後の反動と政党政治
	11月	右翼と軍部の進出		経済恐慌から右翼、軍部の勢力が強まる過程
	12月	中国との対立		満州事変をめぐる日本と中国の対立
三 学 期	1月	日中戦争から太平洋戦争へ	18h	日中戦争から太平洋戦争にいたる経過と敗戦の要因
	2月	質問対応		質問・個別指導対応
	3月	質問対応		質問・個別指導対応

評価の観点 ・方法	<p> 考査成績のほか、小テストや提出物(課題・ノート)、授業態度など総合的に評価する </p>
--------------	--

教科・科目	公民・政治経済	2単位	対象学年・組・区分	3年必修
教科書 ・副教材等	最新政治・経済 新訂版(実教出版) 最新政治・経済新訂版演習ノート(実教出版)	教科 担当者	公民科 中川清敬	

目 標	一学期	現代の経済について基礎的事項を理解し、自分なりの考えを持つ
	二学期	現代の政治について基礎的事項を理解し、自分なりの考えを持つ
	三学期	現代社会の諸問題について考慮し、自分なりの考えを持つ

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	現代の経済	24h	資本主義経済と社会主義経済
	5月	現代の経済		市場経済のしくみと企業の働き
	6月	現代の経済		労働問題
	7月	現代の経済		まとめ
二 学 期	9月	現代の経済	28h	資本主義経済と社会主義経済日本国憲法と人権
	10月	現代の政治		立法・行政・司法
	11月	現代の政治		平和主義と安全保障政策
	12月	現代の政治		まとめ
三 学 期	1月	現代社会の諸課題	18h	まとめ
	2月			
	3月			

評価の観点 ・方法	<p> 考査成績・提出物の状況のほか、出席状況と毎日の授業態度などを含め総合的に評価する。 </p>
--------------	--

令和5年度 年間授業計画

都立板橋高等学校

教科・科目	公民・現代社会	2単位	対象学年・組	3年1組～7組 必修選択
教科書 ・副教材等	高等学校 新現代社会(帝国書院)	教科 担当者	公民科 水野 裕・中川 清敬	

目 標	一学期	現代社会の在り方と、人間としての生き方を考えさせる
	二学期	現代社会における様々な問題について考えさせる
	三学期	平和で豊かな人生と社会をつくるために、どのような課題意識をもって生きるべきか考えさせる

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	現代の社会と人間としての在り方生き方	24h	経済社会における諸問題
	5月	現代の社会と人間としての在り方生き方		経済活動における諸問題
	6月	現代の社会と人間としての在り方生き方		現代の民主政治と政治参加 個人の尊重と法の支配
	7月	現代の社会と人間としての在り方生き方		個人の尊重と法の支配
二 学 期	9月	現代の社会と人間としての在り方生き方	28h	現代社会における青年期
	10月	現代の社会と人間としての在り方生き方		現代社会における青年期
	11月	現代の社会と人間としての在り方生き方		国際社会における諸問題
	12月	現代の社会と人間としての在り方生き方		国際協力の在り方
三 学 期	1月	現代の社会と人間としての在り方生き方	18h	社会との関わり方
	2月			
	3月			

評価の観点 ・方法	ノート、課題プリント、授業態度、出席状況(欠席・遅刻)などを考慮して、総合的に評価する。
--------------	--

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	数学・数学Ⅲ	6単位	対象学年・組	3年必修選択C枠・自由選択X枠・Y枠
教科書	新編数学Ⅲ（数研出版）	教科	数学科	
・使用教材等	数研出版 基本と演習のテーマ 数学Ⅲ	担当者	久保木孝史	

目 標	一学期	2次曲線と曲線の媒介変数表示を学び、極座標が使えるようにする。分数関数、無理関数、逆関数及び合成関数を学び、微分法・積分法の基礎として、数列及び関数の極限值や極限を求められるようにする。
	二学期	積、商、合成関数の微分法を学び、三角関数等を含むいろいろな関数の導関数が求められるようにし、接線の方程式や平均値の定理が扱えるようにする。新たな関数の不定積分を学ぶ。置換積分や部分積分を学び、いろいろな関数の不定積分を求め、それらの関数の増減・凹凸を調べる。また、定積分についても同様に計算できるようにし、面積や体積を求められるようにする。
	三学期	複素数平面を学び、極形式やド・モアブルの定理が扱えるようにする。

学 期	月	単 元	時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	式と曲線	72h	二次曲線・媒介変数と極座標
	5月	関数・極限		分数関数、無理関数、逆関数と合成関数、数列の極限
	6月	極限・微分法		数列の極限、無限等比数列、無限級数、関数の極限 導関数
	7月	微分法		いろいろな関数の導関数
二 学 期	9月	微分法の応用	84h	導関数の応用・いろいろな応用
	10月	積分法とその応用		不定積分
	11月	積分法とその応用		定積分
	12月	積分法とその応用		積分法の応用
三 学 期	1月	複素数平面	54h	複素数平面
	2月	質疑応答		質疑応答
	3月	質疑応答		質疑応答

評価の観点 ・方法	定期考査・課題・小テスト・提出物・授業の取組・出席状況等で総合的に判断する。
--------------	--

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	数学・文系数学	2単位	対象学年・組	3年全クラス 必修選択B枠
教科書	新編 数学ⅠA (数研出版)	教科	数学科	
・使用教材等	リンク数学演習Ⅰ+A受験編Ⅰ	担当者	久保木孝史	

目 標	一学期	1 文系の数学受験について、各大学の過去問を解くことで理解を深める。 2 参考書などを見ながら解き、教科書で基本事項を確認する。 3 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
	二学期	1 文系の数学受験について、各大学の過去問を解くことで理解を深める。 2 参考書などを見ながら解き、教科書で基本事項を確認する。 3 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
	三学期	1 入試レベルの問題に慣れるように、抱く大学の入試問題を解く。 2 志望する大学の過去問を解くことで、その大学の出題の傾向と対策を練る。 3 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

学期	月	単元	時間	学習内容
一学期	4月	数と式	24h	入試問題演習及び復習
	5月	数と式 2次関数		入試問題演習及び復習
	6月	2次関数 図形と計量		入試問題演習及び復習
	7月	平面図形		入試問題演習及び復習
二学期	9月	三角比	28h	入試問題演習及び復習
	10月	集合と命題 場合の数と確率		入試問題演習及び復習
	11月	場合の数と確率 整数の性質		入試問題演習及び復習
	12月	整数の性質		入試問題演習及び復習
三学期	1月	データの分析	18h	入試問題演習及び復習
	2月	質疑応答		質疑応答
	3月	質疑応答		質疑応答

評価の観点 ・方法	定期試験・課題・提出物・授業の取組・出席状況等で総合的に判断する。
--------------	-----------------------------------

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	数学・理系数学	2単位	対象学年・組	3年全クラス必修選択B
教科書	新編 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B (数研出版)	教科	数学科	
・使用教材等	クリアー数学演習ⅠⅡAB(数研出版)	担当者	長谷啓史	

目 標	一学期	1 理系の受験数学について、各大学の過去問を解くことで理解を深める。 2 参考書などを見ながら解き、教科書で基本事項を確認する。 3 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
	二学期	1 理系の受験数学について、各大学の過去問を解くことで理解を深める。 2 参考書などを見ながら解き、教科書で基本事項を確認する。 3 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
	三学期	1 入試レベルの問題に慣れるように、抱く大学の入試問題を解く。 2 志望する大学の過去問を解くことで、その大学の出題の傾向と対策を練る。 3 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

学期	月	単元	時間	学習内容
一学期	4月	数と式 2次関数	24h	入試問題演習及び復習
	5月	図形と計量 データの分析 場合の数と確率		入試問題演習及び復習
	6月	図形の性質、整数の性質 式と証明、複素数と方程式		入試問題演習及び復習
	7月	図形と方程式 三角関数		入試問題演習及び復習
二学期	9月	指数関数と対数関数 微分法と積分法	28h	入試問題演習及び復習
	10月	ベクトル 数列		入試問題演習及び復習
	11月	総合問題演習		入試問題演習及び復習
	12月	総合問題演習		入試問題演習及び復習
三学期	1月	総合問題演習	18h	入試問題演習及び復習
	2月	質疑応答		質疑応答
	3月	質疑応答		質疑応答

評価の観点 ・方法	定期試験・課題・提出物・授業の取組・出席状況等で総合的に判断する。
--------------	-----------------------------------

令和5年度 年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	数学・看護数学	2単位	対象学年・組	3年必修選択B枠
教科書	新編 数学 I・数学A (数研出版)	教科	数学科	
・使用教材等	看護・医療系のための数学 I・A(実教出版)	担当者	長谷啓史	

目 標	一学期	1 「数と式」、「2次関数」、「図形と計量」、「集合と論理」、「データの分析」について理解を深める。 2 希望する進路の実現に必要な能力を高める。 3 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
	二学期	1 「場合の数」、「確率」、「整数の性質」、「図形の性質」について理解を深める。 2 希望する進路の実現に必要な能力を高める。 3 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
	三学期	1 問題演習を行い、数学 I 及びA全般について理解を深める。 2 希望する進路の実現に必要な能力を完成させる。 3 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

学 期	月	単 元	時 間	学 習 内 容
一 学 期	4月	数と式	24h	復習及び問題演習
	5月	2次関数		復習及び問題演習
	6月	図形と計量 集合と論理		復習及び問題演習
	7月	データの分析		復習及び問題演習
二 学 期	9月	場合の数 確率	28h	復習及び問題演習
	10月	整数の性質 図形の性質		復習及び問題演習
	11月	問題演習		復習及び問題演習
	12月	問題演習		復習及び問題演習
三 学 期	1月	問題演習	18h	復習及び問題演習
	2月	質疑応答		質疑応答
	3月	質疑応答		質疑応答

評価の観点 ・方法	定期試験・課題・提出物・授業の取組・出席状況等で総合的に判断する。
--------------	-----------------------------------

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	数学・教養数学	2単位	対象学年・組	3年必修選択A枠
教科書	新編 数学I・数学A (数研出版)	教科	数学科	
・使用教材等	整理と演習完成ワーク数学(増進堂)	担当者	大楽安弘	

目 標	一学期	1 「数と式」、「方程式・不等式」、「文章問題」について理解を深める。 2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
	二学期	1 「文章問題」、「関数」、「三角比」、「図形と計量」について理解を深める。 2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
	三学期	1 「場合の数」、「確率」について理解を深める。 2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

学期	月	単元	時間	学習内容
一学期	4月	数と式	24h	数の計算・式の計算に関する復習及び問題演習 因数分解・約数と倍数に関する復習及び問題演習
	5月	数と式		平方根の計算に関する復習及び問題演習
	6月	数と式		方程式・不等式に関する復習及び問題演習
	7月	方程式・不等式		方程式・不等式に関する復習及び問題演習 文章問題に関する復習及び問題演習
二学期	9月	文章問題	28h	文章問題に関する復習及び問題演習
	10月	関数		1次関数・2次関数に関する復習及び問題演習
	11月	図形と計量		合同・相似・円に関する復習及び問題演習
	12月	三角比		三角比に関する復習及び問題演習
三学期	1月	場合の数・確率	18h	場合の数・確率に関する復習及び問題演習
	2月	質疑応答		質疑応答
	3月	質疑応答		質疑応答

評価の観点 ・方法	定期試験・課題・提出物・授業の取組・出席状況等で総合的に判断する。
--------------	-----------------------------------

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	理科・物理	4単位	対象学年・組・区分	3年必修選択
教科書 ・副教材等	改訂版 物理（第一学習者） 実践アクセス総合物理	教科 担当者	理科 塩野浩伸	

目 標	一学期	運動量の保存、円運動、単振動、万有引力について理解する。
	二学期	気体分子の運動・波（音・光）の干渉・回折・電場と磁場について理解する。
	三学期	電磁誘導について理解する。

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	運動量	48h	運動量と力積・運動量保存の法則
	5月	円運動		慣性力・等速円運動
	6月	単振動		単振動の速度・加速度
	7月	万有引力		ケプラーの法則・万有引力の法則
二 学 期	9月	気体分子の運動	56h	気体の内部エネルギー・気体の状態変化
	10月	波		干渉・ドップラー効果・光の屈折・光の回折と干渉
	11月	電荷と電場		静電気・電場・電位・コンデンサー・電気回路
	12月	磁場と電流		電流のつくる磁場・電流が磁場から受ける力
三 学 期	1月	電磁誘導	36h	ローレンツ力・自己誘導・相互誘導
	2月	まとめ		まとめ
	3月	質問対応		質問対応

評価の観点 ・方法	定期考査を主とし、提出物（ノート・レポート等）、出欠状況（遅刻・授業態度等）を加算し総合的に評価する。
--------------	---

教科・科目	理科・化学	4単位	対象学年・組・区分	3年 理科必修選択
教科書 ・副教材等	化学 新訂版 (実教出版) リードLightノート化学 四訂版 (数研出版)	教科 担当者	理科 谷川 直	

目 標	一学期	個体、液体、気体の性質について学ぶ
	二学期	物質の状態と平衡・物質の変化と平衡について、基礎的基本的な事項を理解する。また、有機化学の基礎を学ぶ。
	三学期	デンプンや糖類、タンパク質や油脂の化学的性質について学ぶ。

学 期	月	単 元	時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	物質の構造	48h	状態変化、気液平衡
	5月	物質の構造		気体の性質
	6月	物質の構造		結晶の構造、液体の性質
	7月	物質の構造		気体の性質
二 学 期	9月	酸化還元	56h	電気分解と電池
	10月	物質の構造 反応の速さと化学平衡		溶液の性質、反応の速さとしくみについて学ぶ。
	11月	反応の速さと化学平衡 無機化合物		様々な化学平衡を理解する。 金属・非金属元素の性質について学ぶ。
	12月	有機化合物		炭化水素、酸素を含む化合物。窒素を含む化合物について学ぶ。
三 学 期	1月	有機化合物	36h	芳香族化合物について学ぶ。
	2月	まとめ		まとめ
	3月	質問対応		質問対応

評価の観点 ・方法	<p>1 定期考査の成績、学習活動への取り組み、観察・実験レポートの内容等で評価する。</p> <p>2 学期全体の評価は、おおよそ定期考査の成績で70%、観察・実験レポート等の提出物と授業への取り組み30%の配分で総合的に判断して行う。</p>
--------------	---

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	理科・生物基礎	2単位	対象学年・組・区分	3年必修選択
教科書 ・副教材等	改訂版 生物基礎（実教出版）	教科 担当者	理科 山崎 仁	

目 標	一学期	生命現象の仕組みについてその基礎的知識を習得する
	二学期	遺伝の仕組みについて学ぶ
	三学期	生物の多様な環境適応について学ぶ

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	生物の分類	24h	様々な生物の特徴と分類
	5月	細胞のはたらき		顕微鏡の使い方とマイクロメーター
	6月	体を構成する物質		タンパク質・脂質・炭水化物の特徴とつくり
	7月	遺伝情報の伝達		タンパク質合成の仕組みについて
二 学 期	9月	ひとのからだ	28h	神経器官系の仕組みと働き
	10月			循環器官系の仕組みと働き
	11月			排出器官系の仕組みと働き
	12月			消化器官系の仕組みと働き
三 学 期	1月	植物の環境応答	18h	発芽調節・成長調節・植物ホルモン
	2月	まとめ		まとめ
	3月	質問対応		質問対応

評価の観点 ・方法	定期考査、学習状況を含め、積極的に授業参加しているかを総合的に評価する。
--------------	--------------------------------------

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	理科・生物	4単位	対象学年・組・区分	3年必修選択
教科書 ・副教材等	改訂版 生物 (数研出版) フォトサイエンス生物図録(数研出版) リード 生物(数研出版)	教科 担当者	理科 山崎 仁	

目 標	一学期	生命現象の仕組みについてその基礎的知識を習得する
	二学期	生殖と発生の仕組みについて理解する
	三学期	生物の多様な環境適応について学ぶ

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	細胞と分子	48h	生体を構成する細胞のつくりと働き
	5月	タンパク質の構造		タンパク質の特性と酵素の働き
	6月	代謝とエネルギー		呼吸と光合成の仕組み
	7月	遺伝情報の発現		DNAの構造と遺伝情報の発現の仕組み
二 学 期	9月	遺伝子と染色体	56h	体細胞分裂と減数分裂
	10月	遺伝情報の伝達		様々な遺伝情報の伝達の仕組み
	11月	配偶子形成		動物・植物の配偶子形成の仕組み
	12月	動物の反応と行動		神経伝達とホルモン
三 学 期	1月	植物の環境応答	36h	発芽調節・成長調節・植物ホルモン
	2月	まとめ		まとめ
	3月	質問対応		質問対応

評価の観点 ・方法	定期考査、学習状況を含め、積極的に授業参加しているかを総合的に評価する。
--------------	--------------------------------------

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	保健体育・体育	2単位	対象学年・組・区分	3年1234567必修
教科書 ・副教材等	現代高等保健体育 改訂版（大修館）	教科 担当者	保健体育科 笹川浩司、奥村秀章、渋谷国之、廣江剛之、新妻久美、渡部絹江	

目 標	一学期	生涯体育・スポーツを目指し、自己の能力・適性に応じて、主体的に運動実践を行うことができる。
	二学期	生涯体育・スポーツを目指し、自己の能力・適性に応じて、主体的に運動実践を行うことができる。
	三学期	生涯体育・スポーツを目指し、自己の能力・適性に応じて、主体的に運動実践を行うことができる。

学期	月	単元	時間	学習内容
一学期	4月	体育理論	6h	体カテスト 各種球技における基本スキルの復習と向上、応用スキルの向上、自主的ゲーム運営の向上 水泳は、個人メドレー及び時間泳。 体育理論は、豊かなスポーツライフの設計。
	5月	体づくり運動、種目選択(ソフトボール・バドミントン・バスケットボール・フットサル、テニス、卓球)	6h	
	6月	水泳、体育理論、種目選択(ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フットサル、テニス、卓球、アルティメット)	8h	
	7月	体育理論、種目選択(ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フットサル、テニス、卓球、アルティメット)	4h	
二学期	8月			各種球技における基本スキルの復習と向上、応用スキルの向上、自主的ゲーム運営の向上 水泳は、個人メドレー及び時間泳。 体育理論は、豊かなスポーツライフの設計。
	9月	種目選択(ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フットサル、テニス、卓球、アルティメット)	8h	
	10月	種目選択(ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フットサル、テニス、卓球、アルティメット)	8h	
	11月	体づくり運動、種目選択(ソフトボール・バドミントン・バスケットボール・フットサル、テニス、卓球)	8h	
	12月	種目選択(ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フットサル、テニス、卓球、アルティメット)	4h	
三学期	1月	種目選択(ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フットサル、テニス、卓球、アルティメット)	6h	種目選択とゲーム運営
	2月	学年のまとめ	8h	学年のまとめ
	3月	学年のまとめ	4h	学年のまとめ

評価の観点	各種目に主体的・意欲的に取り組んでいる。目標としている技能を身につけている。役割を積極的に引き受け、その責任を果たしている。健康・安全の確保に努めている。
・方法	これらの観点を総合的に捉え、参加点・技能点として振り分け、各種目内で学期ごとの評価を行う。

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	体育・スポーツⅡ	2単位	対象学年・組・区分	3年1234567必修選択
教科書 ・副教材等	現代高等保健体育 改訂版（大修館）	教科 担当者	保健体育科 渋谷国之、奥村秀章、新妻久美、渡部絹江	

目 標	一学期	バスケットボール・バドミントン・バレーボール・サッカー・フットサル・ソフトボール・テニス・軟式野球・アルティメット等の種目における基本スキルの復習と応用スキル習得とゲーム運営を通じて生涯体育に通じる運動への意欲的参加態度を育成する
	二学期	バスケットボール・バドミントン・バレーボール・サッカー・フットサル・ソフトボール・テニス・軟式野球・アルティメット等の種目における基本スキルの復習と応用スキル習得とゲーム運営を通じて生涯体育に通じる運動への意欲的参加態度を育成する
	三学期	バスケットボール・バドミントン・バレーボール・サッカー・フットサル・ソフトボール・テニス・軟式野球・アルティメット等の種目における基本スキルの復習と応用スキル習得とゲーム運営を通じて生涯体育に通じる運動への意欲的参加態度を育成する

学期	月	単元	時間	学習内容
一学期	4月	バスケットボール バドミントン バレーボール サッカー フットサル ソフトボール テニス 軟式野球 アルティメット	6h	各種競技の基本スキルの復習と向上、応用スキルの向上、自主的ゲーム運営
	5月		6h	
	6月		8h	
	7月		4h	
二学期	8月	バスケットボール バドミントン バレーボール サッカー フットサル ソフトボール テニス 軟式野球 アルティメット		各種競技の基本スキルの復習と向上、応用スキルの向上、自主的ゲーム運営
	9月		8h	
	10月		8h	
	11月		8h	
	12月		4h	
三学期	1月	上記各競技	6h	各種競技の基本スキルの復習と向上、応用スキルの向上、自主的ゲーム運営
	2月	学年のまとめ	8h	学年のまとめ
	3月	学年のまとめ	4h	学年のまとめ

評価の観点 ・方法	各種目に主体的・意欲的に取り組んでいる。目標としている技能を身につけている。役割を積極的に引き受け、その責任を果たしている。健康・安全の確保に努めている。これらの観点を総合的に捉え、参加点・技能点として振り分け、各種目内で学期ごとの評価を行う。
--------------	--

教科・科目	芸術(音楽)・保育音楽	2単位	対象学年・組・区分	3年必修選択
教科書 ・副教材等	プリント等	教科 担当者	芸術(音楽)科 山崎	

目 標	一学期	鍵盤楽の演奏に関する基礎的知識・技能を通して、音楽を愛好する心情を育てる。
	二学期	鍵盤楽器の演奏に関する応用技能を習得させ、感性を高める。
	三学期	音楽の創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

学期	月	単元	時間	学習内容	
一学期	4月	音楽理論Ⅰ 鍵盤楽器の演奏法 基礎	24h	音符・休符・音階について 左右の指番号 運指練習 片手での練習	
	5月				
	6月				
	7月				脱力の練習 両手の練習 各自の力量に合った曲を練習し、発表
二学期	9月	音楽理論Ⅱ 鍵盤楽器の演奏法 応用	28h	拍子とリズム 記譜理解と読譜 さまざまな演奏技法の習得	
	10月				
	11月				自由曲演奏・伴奏法 発表会
	12月				
三学期	1月	まとめ	18h	楽典総まとめ・演奏練習総まとめ	
	2月				
	3月				

評価の観点 ・方法	〔評価の観点〕 1.知識・技能：楽曲の文化的・歴史的背景や曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 音楽表現するために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けている。 2.思考力・表現力・判断力：演奏や楽曲を多角的に解釈することができる。社会における音楽の役割、価値を考えて創造的に表現できる。 3.主体的に学習に取り組む態度：音楽を生活や社会に活かそうとし、主体的に音楽学習に取り組もうとする。
	〔評価の方法〕実技試験、出席状況、授業態度、レポート・授業内筆記テスト、提出物を総合して評価する。

教科・科目	芸術(音楽)・鑑賞による教養音楽	2単位	対象学年・組・区分	3年必修選択
教科書 ・副教材等	プリント等	教科 担当者	芸術(音楽)科 山崎	

目 標	一学期	さまざまな音楽の特徴を理解し、音楽的視野を広げる。
	二学期	音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他芸術との関わりを探求する。
	三学期	音楽の創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

学期	月	単元	時間	学習内容
一 学 期	4月	音楽の要素と組立て 音楽と映像	24h	音楽の基本的な要素と様式、テクスチャーなどについて学び、鑑賞活動のポイントについて知る。
	5月			映像と結びついたさまざまな音楽作品を知り、音楽が他の芸術と結びついたときの効果を学ぶ。
	6月			
	7月			
二 学 期	9月	音楽と歴史 音楽と絵画 音楽と物語	28h	各地域の音楽とその特徴を学ぶ。音楽の歴史的背景とその特徴を知り、音楽がどのように形成されていったかを学ぶ。
	10月			音楽と絵画や物語が連動して一つの芸術を作った特徴的な時代や地域を、実際の絵画作品等から背景を理解する。
	11月			
	12月			
三 学 期	1月	まとめ	18h	鑑賞の活動を振り返る
	2月			
	3月			

評価の観点 ・方法	〔評価の観点〕 1.知識・技能: 楽曲の文化的・歴史的背景や曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。音楽表現するために必要な鑑賞能力、創作の技能を身に付けている。 2.思考力・表現力・判断力: 楽曲を多角的に解釈することができる。社会における音楽の役割、価値を考えて創造的に表現できる。 3.主体的に学習に取り組む態度: 音楽を生活や社会に活かそうとし、主体的に音楽学習に取り組もうとする。
	〔評価の方法〕発表、出席状況、授業態度、レポート、提出物を総合して評価する。

令和5年度 年間授業計画 都立板橋高校

教科・科目	芸術 ・ アートとデザイン	2単位	対象学年・組	3年必修選択
教科書 ・副教材等		教科 担当者	芸術科 佐治香菜子	

目 標	一学期	・コラージュの制作により、発想力と構成力を育成する。 ・学校行事に関連したポスターのデザインをとおして、見る側に伝える技術と表現力を養う。
	二学期	・和紙の特性と歴史を理解し、制作をとおして技術と表現力を身につける。
	三学期	・日本画の表現と技術を制作をとおして学び、自己表現として作品に昇華させる。

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	オリエンテーション	24h	・今年度の授業内容を確認し、目標を立てる。
	5月	コラージュ		・学校で用意した様々な写真と、色紙を切り貼りで再構成することで、色彩感覚、発想力、表現力を養う。
	6月	文化祭ポスター制作		・アイデアスケッチや下描きの進め方を学び、水彩絵の具による表現を実践する。文化祭を題材に、視覚的なデザインを通して、見る側に伝える技術と表現力を高める。
	7月			
二 学 期	9月	和紙の照明制作	28h	・和紙の歴史、特性を学び、国の伝統工芸に対する理解を深める。 ・和紙と檜棒の特性を生かした、創造的なデザインを考え、制作のプロセスを組み立てる力を身につける。 ・照明器具という用途と、安全性、利便性も考えたデザインを考える。
	10月			
	11月			
	12月	日本絵画の鑑賞		・3学期制作する日本画制作に向けて、日本絵画の鑑賞を行い、その特性と表現及び技法について考える。
三 学 期	1月	日本画制作	18h	・日本画の技法と特性を学び、それらを生かした絵画表現を模索する。 ・自己表現と技法習得とを兼ね、画材を生かした表現技法を自ら考え、実践する。 ・日本美術の持つ独特の美しさを制作をとおして理解する。
	2月			
	3月			

評価の観点 ・方法	・出席状況、課題の提出状況、授業態度(意欲的・主体的に学習に取り組んでいるか)、制作した作品、ワークシート・振り返り等を総合して評価する。
--------------	---

教科・科目	芸術 ・ コンポジションとデッサン	2単位	対象学年・組	3年必修選択
教科書 ・副教材等		教科 担当者	芸術科 佐治香菜子	

目 標	一学期	・クロッキーをとおして、人体についての観察力と描写力を養う。 ・細密画をとおして、より深い観察力と描写力を養う。デッサンの技術、知識を身につけ、高度な技術を身につける。 ・平面構成の基本を学び、構成力と絵具の技術を高める。
	二学期	・
	三学期	・色面構成を多くこなすことで、構成力をより強化する。

学期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	オリエンテーション 人物クロッキー	24h	・今年度の授業内容を確認し、目標を立てる。 ・人の身体の構造を短時間で捉える力をつける。
	5月	細密画(鉛筆)		・鉛筆デッサンの基本的な技術、知識を身につける。 ・身近な果物、野菜を細部まで観察し、鉛筆で徹底的に細密に描く力を身につける。
	6月	平面構成 (テーマ:オノマトペ)		・色彩の基礎を復習し、色彩の特性を理解した上で、 テーマに沿った構成になるよう、自ら考え実践する。 ・アクリル絵具の特性を理解し、技術を身につけ、丁寧な作業により、より美しい作品を完成させる。
	7月			
二 学 期	9月	鉛筆デッサン (静物)	28h	・静物デッサンの基本を振り返り、鉛筆デッサンの応用 技術を制作により高める。 ・モチーフ観察し、かたち、陰影を正確に捉えて表現する 力を伸ばす。 ・余白と構図を意識することで、構成力を養う。
	10月			
	11月	平面構成 (モチーフの構成)		・モチーフを生かし、テーマに沿った構成になるよう、自 ら考え実践する。 ・より高度な技術を身に付け、表現力、構成力を向上さ せる。
	12月			
三 学 期	1月	作品鑑賞 調べ学習、発表	18h	・日本および世界の美術作品を鑑賞し、自分自身が選 んだ作家、作品について調べて、ワークシートにまとめ る。調べ学習をとおして、作品が制作された背景などを 知ることで、表現の深さについて考える力を養う。 ・発表をとおして、調べたことを他者にわかりやすく伝え る技術を高める。 ・他者の発表を聞き、表現方法の違いや新しい知識へ の興味を広げ、関心・意欲を高める。
	2月			
	3月			

評価の観点 ・方法	・出席状況、課題の提出状況、授業態度(意欲的・主体的に学習に取り組んでいるか)、制作した作品、ワークシート・振り返り等を総合して評価する。
--------------	---

令和5年度 年間授業計画 都立板橋高等学校

教科・科目	芸術(書道) 現代書と実用書	2単位	対象学年・組	3年 必修選択
教科書 ・副教材等	硬筆書写技能検定級ドリル	教科 担当者	保田 美永子	

目 標	一学期	ドリル・プリント課題を中心に、書写技術と理論を習得する。毛筆の基本。
	二学期	代表的な古典の臨書・倣書・創作・漢字仮名交じり文
	三学期	漢字仮名交じり文

学 期	月	単 元	実時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	硬筆の学習	24h	ドリル・プリントで、楷書・行書の基本から実技検定の対策 草書、筆、理論と実技
	5月			
	6月	硬筆 毛筆の基本		
	7月	漢カナ		
二 学 期	9月	漢字の書	28h	古典の臨書と倣書、楷、行、草、隸、篆
	10月			
	11月	仮名の書		
	12月	仮名・漢カナ		
三 学 期	1月	仮 仮名	18h	選文・書法すべて自由な発想で作品を制作
	2月			
	3月			

評価の 観点	<p>【評価の観点】</p> <p>1. 知識・技能: 理論を理解し、技法を習得する。</p> <p>2. 思考力・表現力・判断力: 思考・決定をすみやかにし、課題に適した表現ができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度: 課題に積極的に取り組み、達成感を得られるよう努力する。</p> <p>【評価の方法】</p> <p>提出物・小テスト・態度</p>
-----------	--

令和5年度 年間授業計画 都立板橋高等学校

教科・科目	外国語(英語)・ コミュニケーション英語Ⅲ	4単位	対象学年・組	3年 全クラス必修
教科書 ・副教材等	BIG DIPPER English Communication Ⅲ (数研出版) 同ワークブック等	教科 担当者	笠井修、桑名修一、竹内淳子	

目 標	一学期	語彙と四技能をバランスよく身に着け、積極的に英語コミュニケーションを図る姿勢を身に着ける。
	二学期	語彙と四技能をバランスよく身に着け、積極的に英語コミュニケーションを図る姿勢を身に着ける。
	三学期	語彙と四技能をバランスよく身に着け、積極的に英語コミュニケーションを図る姿勢を身に着ける。

学 期	月	単 元	実時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	オリエンテーション Lesson1,2	48h	<ul style="list-style-type: none"> ・主題に注意して読む。 ・意味のまとまりに注意して読む。 ・言い換え表現、追加、列挙の表現。
	5月	Lesson3,4 中間考査		<ul style="list-style-type: none"> ・臨場感を味わい、重慶を創造しながら英文を読む。 ・主張と根拠に注意して読む。 ・例示え表現、賛成、反対、聞き返しの表現。
	6月	Lesson5,6		<ul style="list-style-type: none"> ・時系列に従って、出来事や事実をまとめながら英文を読む。 ・スキミングを意識して、英文を読む。 ・時間的順序の表現、因果関係の表現。
	7月	Lesson7,8 期末考査		<ul style="list-style-type: none"> ・スキミングを意識して、英文を読む。 ・対比に注意して、英文を読む。 ・対比の表現。
二 学 期	9月	Lesson9,10	56h	<ul style="list-style-type: none"> ・原因と結果に注意して、英文を読む。 ・主張に対する反論に注意して、英文を読む。 ・譲歩の表現。
	10月	Lesson11,12 中間考査		<ul style="list-style-type: none"> ・なめらかに英文が読めるように努める。 ・目的と理由に注意して、英文を読む。 ・早口言葉を練習して、舌の使い方に慣れる。
	11月	Lesson13,14		<ul style="list-style-type: none"> ・論理の進め方に注意して、英文を読む。 ・賛成、反対とその理由を述べる表現。
	12月	Lesson15,16 期末考査		<ul style="list-style-type: none"> ・南極のクルージングの広告を読み解く。 ・広告文の表現に慣れる。
三 学 期	1月	Lesson17 学年末考査	36h	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの子供たちに、靴は必要か考える。 ・環境に因って、正しい間違っているの基準が変わることを学ぶ。
	2月	質問対応		質問対応
	3月	質問対応		質問対応

評価の 観点	定期考査、小テスト、提出物、授業態度、出席状況等を総合的に判断して評価する。
-----------	--

教科・科目	外国語(英語)・英語表現Ⅱ	2単位	対象学年・組・区分	3年全クラス必修
教科書 ・副教材等	Vision Quest English Expression II Hope (桐原書店) 新装版 総合英語EMPOWER Essential Course	教科 担当者	外国語(英語)科 笠井修・土田峻雅・岡城裕文	

目 標	一学期	基本的な文法事項を確認し、さまざまな表現を習得して、正しい英語を書けるようにする。
	二学期	基本的な文法事項を確認し、さまざまな表現を習得して、正しい英語を書けるようにする。
	三学期	これまでに学習したさまざまな表現を活用し、いろいろな状況での確に伝えられるようにする。

学 期	月	単 元	時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	オリエンテーション Lesson5	24h	授業の進め方・方針の徹底 仮定法
	5月	Lesson5 中間考査 Lesson5 Grammar Focus ③		仮定法 能動態と受動態
	6月	Lesson5 Grammar Focus③ Lesson6		能動態と受動態 名詞を前置・後置修飾する語句
	7月	期末考査		一学期の内容の復習
二 学 期	9月	Lesson6	28h	関係代名詞 関係副詞
	10月	Lesson7 中間考査 Lesson7 Grammar Focus ④		副詞・不定詞や分詞を使った副詞句 副詞節・前置詞
	11月	Lesson8		比較級を用いた比較表現
	12月	期末考査 Lesson8		最上級を用いた比較表現
三 学 期	1月	考査前まとめ 学年末考査	18h	既習範囲の文法の確認
	2月	質問対応		質問対応
	3月	質問対応		質問対応

評価の観点 ・方法	定期考査・提出物(・ワークブック・小テスト・課題プリント)・出席状況・授業態度等を評価対象とし、総合的に評価する。
--------------	---

令和5年度年間授業計画 都立板橋高等学校

教科・科目	外国語・基礎英語	2 単位	対象学年・組	3学年 自由選択
教科書 ・副教材等	啓林館 NEW 基本の英語 3rd Edition	教科 担当者	新村	

目 標	一学期	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
	二学期	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
	三学期	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

学 期	月	単 元	実時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	Warm Up Lesson 1, 2	24h	アルファベット・可算名詞・不可算名詞・人称代名詞 be動詞の現在形(肯定文・否定文・疑問文)
	5月	Lesson 3, 4, 5, 6, 7		一般動詞の現在形(肯定文・否定文・疑問文) be動詞・一般動詞の過去形(肯定文・否定文・疑問文) 疑問詞
	6月	Lesson 8, 9, 10 復習		疑問詞・自動詞と他動詞・形容詞と副詞 There+be構文・進行形
	7月	Lesson 11, 12, 復習		未来表現・助動詞can/may
二 学 期	9月	Lesson 13, 14, 復習	28h	助動詞must/should
	10月	Lesson 15, 16, 17		現在完了形(完了・結果/経験/継続)
	11月	Lesson 18 Step Up 1 復習		現在完了進行形・過去完了形
	12月	Lesson 19, 20, 21		比較表現(原級比較・比較級・最上級)
三 学 期	1月	Lesson 22, 23, 24 復習	18h	不定詞(名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法)・動名詞
	2月	Lesson 25, 26		現在分詞/過去分詞・関係代名詞
	3月	Lesson 27 Step Up 2		仮定法過去・関係副詞

評価の 観点・ 方法	定期考査(2回)・スピーキングテスト・小テスト・提出物・主体的に学習に取り組む態度を総合して評価する。
------------------	---

令和5年度年間授業計画 都立板橋高等学校

教科・科目	外国語(英語)実践英語	単位	対象学年・組	3年必修選択
教科書 ・副教材等	英語長文演習シリーズ SWITCH(文英堂)	教科 担当者	外国語(英語)科 笠井修(C)(A)	

目 標	一学期	長文読解・文法問題演習を通して、希望する進路を実現できる実践的な英語力を身につける。
	二学期	長文読解・文法問題演習を通して、希望する進路を実現できる実践的な英語力を身につける。
	三学期	長文読解・文法問題演習を通して、希望する進路を実現できる実践的な英語力を身につける。

学 期	月	単 元	時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	オリエンテーション 問題演習	24h	実践英語を学習するにあたっての説明 歴史
	5月	問題演習 中間考査		教育・社会
	6月	問題演習		健康・教育
	7月	期末考査 問題演習		生活
二 学 期	9月	問題演習	28h	健康
	10月	問題演習 中間考査		生活・環境
	11月	問題演習		産業・国際
	12月	問題演習 まとめ		言語・生活
三 学 期	1月	学年末考査 総復習	18h	社会
	2月	質問対応		質問対応
	3月	質問対応		質問対応

評価の 観点・ 方法	定期考査・提出物・小テスト・授業態度等の平常点を評価対象とし、総合的に評価する。
------------------	--

令和5年度年間授業計画 都立板橋高等学校

教科・科目	家庭・家庭総合	単位	対象学年・組	3年 1～7組
教科書 ・副教材等	新家庭総合（実教出版） 新家庭総合学習ノート	教科 担当者	家庭科 船津 香住	

目 標	一学期	住居の機能やライフステージごとの重要級について理解させる。将来に向けて住生活の創造を考えさせる。
	二学期	栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品について基礎的な知識を習得する。
	三学期	これからの人生を豊かにする生活設計を考える。

学 期	月	単 元	実時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	家庭総合とは	24h	世界の住まい
	5月	住生活をつくる		日本の和風木造住宅・住まいの機能を考える
	6月	住生活をつくる		住生活について考える
	7月	住生活をつくる		計画と選択 住生活の文化
二 学 期	9月	食生活をつくる	28h	人と食物のかかわり 私たちの食生活
	10月	食生活をつくる		栄養と食品の関わり 食品の選び方と安全
	11月	食生活をつくる		食事の計画と調理
	12月	食生活をつくる		これからの食品を考える
三 学 期	1月	食生活をつくる	18h	食に関する世界との関わりを考える
	2月	個別指導		個別指導
	3月	個別指導		個別指導

評価の 観点・ 方法	【評価の観点】
	1. 知識・技能: 住まいや栄養・調理に関する基本的な知識・技術が身についている 2. 思考力・表現力・判断力: 自身の住生活や食生活の課題を考察し、課題解決策を考えられる 3. 主体的に学習に取り組む態度: 住生活や食生活について理解し、自分の考えをまとめられる
	【評価の方法】 出席状況 定期考査成績 実習レポート 提出物 授業・実習態度など総合的に勘案し評価する

令和5年度年間授業計画 都立板橋高等学校

教科・科目	家庭・子どもの発達と保育	単位	対象学年・組	3年必修選択
教科書 ・副教材等	子どもの発達と保育(実教出版) 保育学習ノート	教科 担当者	家庭科 船津香住	

目 標	一学期	乳幼児の発達の特徴、保育に関する知識を習得させ、子どもの健全な成長を図る能力と態度を育てる。人とのふれあいの大切さや子どもの遊びの意義と重要性、遊びと発達の関わりを理解させる。
	二学期	乳幼児の発達に応じた適切な養護について理解する。子どもと遊び、表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得させる。
	三学期	児童福祉について基本的な法律と制度について理解させる。子育て支援の必要性や現状課題について理解させる。

学 期	月	単 元	実時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	オリエンテーション 子どもの発達の特徴	24h	発達と乳幼児期の意義
	5月	子どもの発達の特徴		発達と保育環境 児童観と発達観
	6月	子どもの発達の過程		子どもの発育、子どもの精神発達
	7月	子どもの発達の過程		人間関係の発達
二 学 期	9月	子どもの生活	28h	生活と養護
	10月	子どもの生活		子どもの遊び
	11月	子どもの生活		生活習慣の形成
	12月	子どもの生活		健康管理と事故防止
三 学 期	1月	子どもの保育	18h	保育の意義と重要性、子どもの福祉
	2月	個別指導		個別指導
	3月	個別指導		個別指導

評価の 観点・ 方法	<p>【評価の観点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能: 基礎的な知識技能を身につけている 2. 思考力・表現力・判断力: 子どもにかかわる問題を考察し、自己の考えを述べることができる 3. 主体的に学習に取り組む態度: 子どもに関心を持ち、積極的に理解しようとした <p>【評価の方法】</p> <p>出席状況、定期考査成績、実習レポート、提出物、授業・実習態度など総合的に勘案し評価する</p>
------------------	---

令和5年度年間授業計画 都立板橋高等学校

教科・科目	家庭・ファッション造形基礎	単位	対象学年・組	3年必修選択
教科書 ・副教材等	ファッション造形基礎 (実教出版)	教科 担当者	家庭科 船津 香住	

目 標	一学期	ファッションの楽しみ方を知る。被服構成について理解させる。
	二学期	洋服の基礎的基本的な知識と技術を身に付け、自由作品の製作を行う。
	三学期	自分のファッションについて考えられる力を付ける

学 期	月	単 元	実時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	ガイダンス	24h	センスとは何か、見た目によるファッションを学ぶ
	5月	デザイン、素材		色彩、被服素材について学ぶ、基礎縫い(靴袋)
	6月	被服製作実習		フレアスカート、ランニングパンツ
	7月	立体構成衣服と平面構成衣服		立体構成衣服と平面構成衣服 布地の性質と扱い方、適切な縫い目
二 学 期	9月	被服製作実習	28h	1学期の基礎をもとに応用作品の製作(衣服素材の種類、衣服素材の性能、布地の性質と扱い方、適切な縫い目、基本の縫い方)
	10月	被服製作実習		トップス
	11月	被服製作実習		自由製作
	12月	被服製作実習		自由製作
三 学 期	1月	ファッションまとめ	18h	流行を上手に取り入れた自分のファッションを考える
	2月	質問対応		質問対応
	3月	質問対応		質問対応

評価の 観点・ 方法	【評価の観点】
	1. 知識・技能:衣服の素材や機能に関する知識や縫製技術が身についているか 2. 思考力・表現力・判断力:衣服の状況や流行について適切な情報を集め使うことができるか 3. 主体的に学習に取り組む態度:丁寧に制作活動に取り組んだか
	【評価の方法】 出席状況 作品等の提出物 授業態度 実習態度など総合的に勘案し評価する

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	情報・情報の科学	2単位	対象学年・組・区分	3年選択者 必修選択
教科書 ・副教材等	新・情報の科学（日本文教出版）	教科 担当者	情報科 坂本	

目 標	一学期	・コンピュータの基礎的知識を身に付ける ・プログラミングの基礎を実習により習得する
	二学期	・プログラミングの応用能力、および自己解決能力を身に着ける ・ネットワーク等のシステムについて学習し、社会全体のシステムについて関心をもつ
	三学期	・情報機器が社会へ与える影響及び今後の発展について考えられる

学期	月	単元	時間	学習内容
一学期	4月	コンピュータの仕組み JavaScript	24h	1年次の学習内容を振り返る JavaScriptを学習し、プログラミングの概念を学ぶ
	5月	デジタル表現 半加算、全加算回路 JavaScript		CPUの回路について学習し、コンピュータの仕組みを知る 2進数を用いて文字、音、画像等をデジタル化する
	6月	16進数とデジタル表現		16進数を用いてコンピュータの内部表現を学習する
	7月	モデル化とシミュレーション		現象を簡易にして式や文章で表現しやすくするモデル化を通して、事象を一般化する手法を学習する
二学期	9月	メディアとコミュニケーション HTML	28h	ネットワークにおけるコミュニケーションについて考える HTMLを学習し、プログラミングの概念を学ぶ
	10月	プロトコル HTML&CSS		インターネットのプロトコルについて学習する HTML、およびCSSを学習し、プログラミングの概念を学ぶ
	11月	暗号化と情報システム プログラミング演習		暗号化について学習し、プログラムとリンクさせながら 情報システムについて考察する プログラミングの演習を行い、理解度を深める
	12月	情報社会を支える法律 プログラミング演習		情報社会における法律を学習する プログラミングの演習を行い、理解度を深める
三学期	1月	情報技術による社会の発展	18h	新しい情報技術を学び、それらがもたらす社会の変化を学ぶ
	2月	学年のまとめ		学年のまとめ
	3月	学年のまとめ		学年のまとめ

評価の観点 ・方法	実習での提出物及び学習態度、出席状況を評価の対象とし、総合的に評価する。
--------------	--------------------------------------

令和5年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	情報・情報基礎演習	2単位	対象学年・組・区分	3年選択者 必修選択
教科書 ・副教材等	社会と情報（東京書籍） P検定 オフィシャル教材(P検協会)	教科 担当者	情報科 坂本	

目 標	一学期	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基礎的知識を身に付ける ・自己解決能力を高める
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基礎を生かしてExcel、Word、PowerPointによる表現を行う ・ネットワーク等のシステムについて学習し、社会全体のシステムについて関心をもつ
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器が社会へ与える影響及び今後の発展について考えられる

学期	月	単元	時間	学習内容
一学期	4月	情報システム・セキュリティ	24h	情報システムの現状とセキュリティの対策を学ぶ
	5月	デジタル表現 PC基礎操作		進数表現を用いたコンピュータ処理の原理を学習する 1年次に学習した内容を復習、確認する
	6月	PC基礎演習		文章作成 表、グラフの作成
	7月	ネットワーク		ネットワークがどのように構築されているか学習する
二学期	9月	PC基礎演習	28h	文章作成 表、グラフの作成
	10月	問題解決		ExcelやWord、PowerPointを使用して、課題を図、文章、アニメーション等を用いて表現する
	11月	問題解決		PowerPointでの発表を通して自己表現を行う
	12月	モデル化とシミュレーション		現象を簡易にして式や文章で表現しやすくするモデル化を通して、事象を一般化する手法を学習する
三学期	1月	情報技術による社会の発展	18h	新しい情報技術を学び、それらがもたらす社会の変化を学ぶ
	2月	学年のまとめ		学年のまとめ
	3月	学年のまとめ		学年のまとめ

評価の観点 ・方法	実習での提出物及び学習態度、出席状況を評価の対象とし、総合的に評価する。
--------------	--------------------------------------